加工用キャベツ導入による経営の多角化と若い人材の雇用の場づくり

1. 農事組合法人のきの郷（安来市）

【設　　立】基盤整備を契機にH25年4月設立
【組 合 員】151人
【経営面積】151ha
【経営内容】水稲145ha、大豆28ha、麦5.5ha、
なたね4.4ha、キャベツ 3.1ha、
園芸品目（トマト 、いちご、
ぶどう）(R6年作付)

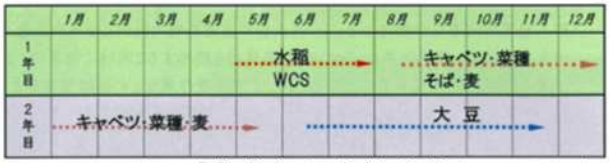
能義第二地区農地整備事業（経営体育成型）
（H20～27年度）

2. 取組の経過及び概要

女性の雇用の場を確保するため、H25年に特産部を創設し、トロ箱によるトマト栽培を開始。

H28年には、**時間当たり収益性の高い露地品目としてキャベツを選定し、水稲・キャベツ・大豆による2年3作体系で年間雇用体制と経営の多角化を実施。**

[作付体系]



H28～29年に「農業振興支援事業（JAしまね）」により、移植機・高畝運搬機・畝立機・施肥機を導入し**機械体系を整備。**H29年には「担い手確保・経営強化支援事業」により野菜出荷調製棟を整備。

機械化体系により作業の効率化を図るとともに病害虫防除、除草対策、定植時のかん水対策、品種構成の検討等、反収向上に向けて各種取組を実施。

キャベツほ場

半自動定植機による定植

キャベツの用途により販売先を選択し、加工用はJAアグリ島根、青果用は市場・直販・学校給食等へ出荷販売。

近年の加工用キャベツの単価低迷に伴い、用途・販売先及び出荷方法を再検討し、冬季の作業量確保と収益性向上の両立を志向。

集荷トラック

3. 取組の成果

(1)若い人材の雇用の場を確保

イチゴ・ぶどう・トマト・キャベツによる経営多角化により、**周年で作業量を確保**することで、県立農林大学校卒（2名）、特定地域づくり事業協同組合（1名）等、**若い人材を雇用**。

キャベツは**冬季の作業量確保のため重要な品目**と位置づけ。

また、作物毎に担当者を配置し、責任を明確にすることで人材育成。

「人づくりが物づくり。人が育たないと物は作れません。」
人材確保には周年での作業量が必要ですので、キャベツは欠かせない品目のひとつです。

河津一行　代表理事

4. 課題と今後の取組方向

(1)収益性改善に向け、加工用出荷から青果用出荷に転換し、販売先を確保。
(2)青果用の出荷期間の拡大、継続・安定的な出荷のための品種構成の再検討。

〈問合せ先〉東部農林水産振興センター安来農業部　安来地域振興第二課　0854-22-2341